

日頃からの心がけ

風水害に備えておくべきこと

台風や集中豪雨はある程度予測できる災害です。情報を入手し、しっかりした準備をしておきましょう。

●建物などの事前準備

屋根瓦のずれなどを補修して飛ばされないようにする。

雨樋の掃除をする。

雨戸のないガラス窓は飛来物に備えて外側から板でふさぐなどの処置をとる。

浸水に備えて建物の周囲にあるものを片付ける。

プロパンガスボンベはしっかり固定する。

建物の周囲にある風に飛ばされそうな物を取り込む。

アンテナなどの補強をする。

竿を取り込み、ベランダなどの小物を全て取り込む。

手すりや壊れていたら修理する。

浸水の危険がある場合には、大切な家財道具は二階や高い安全な場所に移す。

古い雨戸は、飛ばされないように筋交いをつけたり、つかい棒をあてがったりして、応急の補強をする。

●家族の準備



- 必要最小限の非常持出品を準備しましょう。
(地震対策としても日頃からの準備が大切です。)
- 懐中電灯や携帯ラジオ、予備の電池も準備しましょう。
- 生活用水を貯めおきましょう。
(飲料水は1人1日3リットルが目安です。)
- 指定緊急避難場所までのルートをあらかじめ決めておき、安全に通行できるかを実際に歩いて確認しておきましょう。
※外出している家族が、交通機関のマヒなどで帰宅できない場合もあります。離ればなれになってしまった場合に備え、連絡方法や避難場所・集合場所を日頃から十分話しあっておきましょう。

各家庭で備えましょう

●簡単な土のうの作り方

水深が浅い段階なら、家庭にあるごみ袋、レジャーシート、プランターなどを活用した応急処置で対処が可能です。

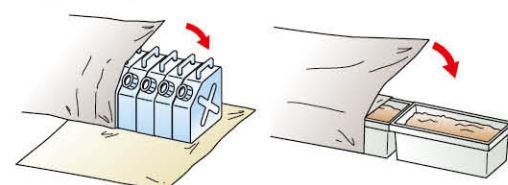
《ごみ袋を利用》

大きめのごみ袋などを二重にし、中に半分程度の水(ふろの残り水などが便利)を入れ、すき間なく並べます。段ボールに入れて連結すると、強度が増し、積み重ねることもできます。



《シートを利用》

土を入れたプランターを横に並べ、レジャーシートを巻き込んで補強します。プランターの代わりに水を入れたポリタンクや重くしたビールケースなども利用できます。



避難訓練に参加しよう

市では毎年「さいたま市総合防災訓練(九都県市合同防災訓練)」を開催しています。

災害から命を守るための判断や行動を身に付けて、地域防災力を高めましょう。また市内各区においても避難所運営訓練などを実施しています。詳細は市ホームページなどをご確認ください。